

## 児童学科 (2016 年度入学者まで)

3 つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理・教育・健康・文化・社会の 5 領域からなる児童学の幅広い知識を持ち、子どもを理解することができる。</li> <li>子どもに関わる諸問題に対し、専門的知識を持って課題解決に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多角的な視野から子どもに関する知識を持ち、的確な子ども観を形成できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に子どもを観察し、子どもから学ぶ姿勢を持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数のゼミにおいて、実際の子どもから得た知識を用い、自らの見解をわかりやすく伝えることができる。</li> </ul>	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門教育の導入として、児童学科の全体像を理解するための「児童学序説」を置く。</li> <li>児童学分野の研究法を学ぶための「フィールドワーク入門」を置く。</li> <li>興味に応じて学修ができるよう、各分野に自由選択科目を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと実際に触れ合いながら体験的に学び、子どもに関する諸問題について理解するために「フィールドワーク演習」を置く。</li> <li>児童学科の担う社会的責任において、教育職員免許状取得のコース(初等教育コースと家庭コース)を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際の子どもの観察を通して得た知識を生かし、自分なりの課題を見つけることができるよう、「文献研究・課題分析研究」を置く。</li> <li>教育職員免許状の取得を希望し、大学が定める必要な手続きを経て、教育実習参加条件を満たした場合は、教育実習に参加できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 年間の学修の集大成として「卒業論文」を作成する。</li> <li>「卒業論文発表会」を全員必修とし、自らの研究についてわかりやすく伝えることができる。</li> <li>必要な手続きを経て、教育職員免許法に定める科目の履修により、幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(家庭)・高等学校教諭一種免許状(家庭)の教育職員免許状を取得することができる。</li> </ul>	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに関わる社会の諸問題に興味のある人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの様々な問題に取り組み、社会貢献という形で実践できる人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもや子どもを取りまく人間や環境に関心を持って学べる人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの考えや感じたことを率直に表現できる人。</li> <li>他者の意見に耳を傾けることができる人。</li> </ul>	

## 児童学科 (2017 年度入学者より)

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童学の幅広い知識を持ち、子どもを理解することができる。</li> <li>・「発達」、「創造・文化」、「社会・臨床」の3領域から学ぶ専門的な知識を持って、18歳未満の子どもを総合的に理解することができる。</li> <li>・保育者養成コースでは、幼児教育や保育に関する専門的知識を修得し、子どもを総合的に理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに関する専門的知識を用いて、多角的な視点から子どもや環境を的確に洞察し分析することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに関する社会的ニーズに常に注意を払い、子どもの最善の利益に寄与したいという姿勢や意欲を有している。</li> <li>・子どもを、「発達」、「創造・文化」、「社会・臨床」の専門領域から眺め、理解しようとする姿勢を常に持つことができる。</li> <li>・保育者養成コースでは、幼児教育や保育及び保護者に関する適切な指導を行いうる専門的職業人となるための自覚と姿勢を有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに関する総合的な知識や洞察を持って、子どもや子どもの置かれている状況を論理的に記述し、言語的・非言語的手段を用いて多様な表現を行うことができる。</li> <li>・「発達」、「創造・文化」、「社会・臨床」の専門領域の視点から子どもや子どもが置かれている状況について、自らの見解を的確及び平易に伝えることができる。</li> <li>・保育者養成コースでは、幼児教育や保育の場面において、専門的知識に基づいた的確な指導あるいは援助を行うことができる。</li> </ul>	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門教育の導入として、児童学科の全体像を理解するための科目「先端児童学序説」を置く。</li> <li>・「発達」、「創造・文化」、「社会・臨床」の3領域をまんべんなく学ぶための選択必修科目を置く。</li> <li>・保育者養成コースでは、幼稚園教諭に関する教職課程及び保育士に関する教育課程に該当する必修及び選択必修科目から、子ども理解、現場での指導についての基礎知識を学修する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得られたデータから、子どもに関する多角的で論理的な分析及び思考力、更には課題解決能力を養うために、教員の個別指導となる「特別演習1」、「特別演習2」を置く。</li> <li>・児童学の研究法を体験的に学修するための「フィールドワーク演習(創造・文化)」、「フィールドワーク演習(社会・臨床)」を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の個別指導となる「文献研究」、「課題分析研究」より自らの関心を広げると同時に焦点化し、子どもに関する実際のデータの取得に積極的に取り組む。</li> <li>・選択科目として「ボランティア実習」を置き、教育や保育の現場における課題の発見とその解決を図る姿勢を養う。</li> <li>・保育者養成コースでは、幼稚園教諭一種免許状及び保育士の資格取得に必要な科目を体系的に配置し、段階的な科目履修によって専門的職業人として働くために必要な実践力養成への意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年間の学修の集大成として「卒業論文」を作成する。</li> <li>・卒業のための必須条件として全員参加となっている「卒業論文発表会」において、自らの研究を論理的かつ的確に伝達することができる。</li> <li>・「文献研究」、「課題分析研究」の必修科目、「フィールドワーク演習(創造・文化)」、「フィールドワーク演習(社会・臨床)」(保育者養成コースの学生は除く)での発表を体験することで、資料の整理及び作成や論理的で的確な言語表現をすることができる。</li> <li>・保育者養成コースでは、資格取得に必要な科目を履修することにより、幼稚園教諭や保育士として働く際に必要な資料の整理や表現ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童学科の保育者養成コース登録者以外の学生には、幼稚園教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(家庭)・高等学校教諭一種免許状(家庭)の資格取得のための科目群を置く。</li> <li>・また、保育士の資格については、社団法人「全国保育士養成協議会」で実施される「保育士試験」に合格することでも取得できる。</li> <li>・保育者養成コースでは、幼稚園教諭一種免許状・保育士の資格取得の課程を置く。</li> </ul>
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや子どもに関連する様々な知識を広げ、理解を深めたい人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに関する様々な事項を深く考えてみたい人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの存在や子どもを取りまく様々な環境や文化に興味や関心の持てる人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの考えや感じたことを率直に表現できる人。</li> <li>・他者の意見に耳を傾けることができる人。</li> </ul>	

## 食物学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
<b>学位授与方針</b> (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品、栄養、調理を中心とした食と生活に関わる諸科学を広く学び、食についての正しい科学的知識を修得し、それらを問題解決に応用することができる。</li> <li>・<u>食物学専攻</u>では、多面的な視点から食物を総合的に理解するスペシャリストとして必要な知識・能力を有する。</li> <li>・<u>管理栄養士専攻</u>では、管理栄養士資格を取得するのに必要十分な知識と応用力を有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題を捉え、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の知識を生活及び社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために生かして社会に貢献したいという意欲を有する。</li> <li>・<u>食物学専攻</u>では、食物の生活や社会に及ぼす影響や効果を説明でき、食に関する様々な問題の解決に積極的な姿勢を有する。</li> <li>・<u>管理栄養士専攻</u>では、健康の保持増進、疾病治療等における医療職としての責務を果たす者としての自覚を持ち、積極的に社会参画する意欲と生涯学習を継続しようとする態度を有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。</li> <li>・論理的に記述し、的確に表現することができる。</li> <li>・<u>管理栄養士専攻</u>では、管理栄養士専門科目である臨床栄養学、公衆栄養学、栄養教育論、給食経営管理論に関する技能を有し、対象と目的に応じた展開ができる。</li> </ul>	
<b>教育課程編成方針</b> (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野に関する知識を修得できるように、効率的に授業科目を置く。</li> <li>・実践的な学修ができるよう、実験・実習科目を置く。</li> <li>・4年間の学修の集大成として卒業研究を必修とする。</li> <li>・<u>食物学専攻</u>では、総合的な食物のスペシャリストとして活躍できる専門知識を学修できるような授業科目を置く。</li> <li>・<u>管理栄養士専攻</u>では、栄養士法に基づく所定の科目を置き、栄養士資格を取得し、管理栄養士国家試験受験資格が得られるものとする。更に、保健、医療、福祉の場における科学的進歩に対応しその中核を担うことができるように基礎科学の修得達成度を高める配置とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する様々な問題を学生に提起し、思考判断が養われるように促している。</li> <li>・<u>管理栄養士専攻</u>では、課題の解決において生命の尊厳について理解し、優先的に考える思考と判断力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の知識と生活や社会との関連について強い関心を持ち、学修意欲を高められるように配慮している。</li> <li>・<u>食物学専攻</u>では「食品開発学特論」等の科目により、専門分野に関する興味や責任を持つように促している。</li> <li>・<u>管理栄養士専攻</u>では、人間の生命活動と社会活動に対する興味を喚起し、生命を守る者としての自覚と責任を持ち、自発的・積極的に学修と実践活動に臨む態度が養成されるように配慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成により、論理的に記述し、的確に表現できるように促している。</li> <li>・実践的な技能が修得できるように実験・実習科目を置く。</li> <li>・表現力の向上ができるように、発表形式の演習・実習科目を置いている。</li> <li>・<u>管理栄養士専攻</u>では、対人業務及びチーム医療を担えるように、他者とのコミュニケーション能力の開発を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品衛生管理者、食品衛生監視員の資格取得に必要な専門知識を学修できるような授業科目を置く。</li> <li>・フードスペシャリスト資格の取得に関する科目を置く。</li> <li>・<u>食物学専攻</u>では、中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状（家庭）の取得に必要な「教科に関する科目」を置く。</li> <li>・<u>管理栄養士専攻</u>では、栄養教諭一種免許状の取得に必要な「栄養に係る教育に関する科目」を置く。</li> </ul>
<b>入学者受入方針</b> (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校で履修した諸科目について十分な基礎知識が定着している。特に、生物・化学について基礎的な知識を有し、食物に関連する事象を科学的に理解し捉えることができる人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会における様々な食に関する事象について多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>食物学専攻</u>では、家庭や社会における様々な食に関する問題に関心を持ち、身に付けた知識・技術をこれらの問題解決に役立てたいと考えている人。</li> <li>・<u>管理栄養士専攻</u>では、管理栄養士免許を取得して、その専門的知識と技能を保健、医療、福祉等の分野において生かして社会に貢献したいと考えている人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを、文章や言葉で他者にわかりやすく伝えることができる人。</li> </ul>	

## 住居学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
<b>学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い視野から住居や地域を理解できる。</li> <li>・<u>居住環境デザイン専攻</u>では、住生活の歩みと現状を理解できる。</li> <li>・<u>建築デザイン専攻</u>では、建築設計に必要なことの基本を理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学、情報処理技術等の知識を用い、生活環境に関わる問題を論理的に分析できる。</li> <li>・<u>居住環境デザイン専攻</u>では、住生活の向上を促す様々な技術を踏まえ、生活環境の住みよさを考えることができる。</li> <li>・<u>建築デザイン専攻</u>では、生活者の視点で、住宅・建築の様々なテーマを考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅の内・外空間について、家族、ライフスタイル、歴史文化、安全性、快適性等多角的に考えることができる。</li> <li>・<u>居住環境デザイン専攻</u>では、近隣や地域を含めた住環境において、様々な住民が住みよいとされるような環境改善を指導できる。</li> <li>・<u>建築デザイン専攻</u>では、住宅・建築に対して機能的、合理的に考え、更に美的センスを生かすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅・建築を居住者や利用者の立場から考え、デザインすることができる。</li> <li>・<u>居住環境デザイン専攻</u>では、プレゼンテーション及びコミュニケーション能力を高め、専門の立場から社会的発言ができる。</li> <li>・<u>建築デザイン専攻</u>では、設計能力、コミュニケーション能力を高め、専門の立場から社会的発言ができる。</li> </ul>	
<b>教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次教育の科目として、基礎数学、基礎物理、力と形、絵画デッサン、空間デザイン基礎を置く。</li> <li>・専門的な知識を修得するために、住生活・計画系、構造系、設備系の講義科目を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもから高齢者まで様々な人たちが快適に暮らせるような住環境を考えるための科目を置く。</li> <li>・<u>居住環境デザイン専攻</u>では、生活者の立場から見た体験型の科目を置く。</li> <li>・<u>建築デザイン専攻</u>では、主体的な行動を重視した実験・実習科目を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性を高めるために実践的・実務的な科目を置く。</li> <li>・<u>居住環境デザイン専攻</u>では、居住環境分野の学際性を追求する選択科目を置く。</li> <li>・<u>建築デザイン専攻</u>では、高度な問題や、設計課題に取り組める選択科目を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅の設計を修得するために、基礎製図Ⅰ・Ⅱや設計製図、住宅設計の実技科目を設け、それらを必修とする。</li> <li>・一級建築士の受験資格の指定科目を必修科目とする。</li> <li>・<u>建築デザイン専攻</u>では、技術士補の資格取得のための科目を置く。</li> </ul>	
<b>入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かで、健全な住生活を行うための住環境を考えたい人。</li> <li>・<u>居住環境デザイン専攻</u>では、生活から住居に関する知識を身に付けたい人。</li> <li>・<u>建築デザイン専攻</u>では、建築設計の知識を身に付けたい人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅や建築、そして居住環境等の身の回りの安全性・機能性を考えたい人。</li> <li>・<u>居住環境デザイン専攻</u>では、生活の場を重視して、現実的な課題を考えたい人。</li> <li>・<u>建築デザイン専攻</u>では、建築の技術的側面に対応できる人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住みよい街づくりを提案したい人。</li> <li>・<u>居住環境デザイン専攻</u>では、快適な住環境のための工夫を学びたい人。</li> <li>・<u>建築デザイン専攻</u>では、快適な住宅・建築のための造形表現を学びたい人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住環境や、建築の設計・デザインを行いたい人。</li> <li>・<u>居住環境デザイン専攻</u>では、住宅系の専門家として社会に貢献したい人。</li> <li>・<u>建築デザイン専攻</u>では、建築系の技術者として社会に貢献したい人。</li> </ul>	

## 被服学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・被服に関する科学的専門知識を修得し、幅広い専門領域から人間生活に必要な被服学の本質を学び、基礎から応用に至る知識を修得する。	・学修した総合的な知識を基礎に、様々な身体条件の人々や生活環境に対応する、快適な衣生活のありかたを考えることができる。	・人間、社会、自然、環境について深い関心や、被服を通していろいろな人の生活を快適に豊かにしたいという意志を持ち、その実現に向かって努力する。	・多角的な視点から被服を理解し、その知識を生活の質(QOL)の向上に活用できる。 ・被服の専門家として、生活分野や教育分野で活躍できる。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・広い視野から被服を総合的に理解するために、自然科学・人文科学・社会科学の全領域から構成される科目を置く。 ・専門科目への導入として、1年次のカリキュラムに、概論や基礎実験等の科目を置く。 ・産業界の知識も学修できるように、企業人を講師とした科目を置く。	・科目履修方法の指針となるコース制を参考に、履修計画を明確にし、確実な学修を進めることができる。テキスタイルサイエンスコース、テキスタイルアートコース、ファッションデザインコースを置き、学生が主体的にコースを選択する。	・被服に関する最先端の知識を得られる科目を置く。衣料管理士(一級)取得のための専門科目を置く。 ・繊維・ファッション業界必携の繊維製品品質管理士(TES)やパターン検定等の資格取得を支援する課外講座を置く。	・被服に関する専門知識を実践的に応用できるよう、実験や実習及び演習科目を置き、講義科目の理解を深める。4年間の学修の集大成として卒業論文を作成し、その成果を卒業論文発表会で第三者にわかりやすく説明することができる。	・中学校・高等学校教諭一種免許状(家庭)・司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員の取得に必要な科目を置く。
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・高等学校で履修する諸科目の基礎知識が定着している人。特に、物理・化学・歴史・語学等について基礎的な知識を有し、被服に関連する事象を総合的に理解しようとする人。	・被服を多角的視点から深く学び、人間生活に役に立つ知識を獲得し、自ら考え、社会へ提案できる人。	・何事にも一生懸命に取り組む姿勢があり、向上心を持つ人。 ・幅広い知識を身に付け、衣生活をより快適に豊かにしたいという意欲のある人。	・自分の考えを文章や言葉で表現でき、コミュニケーションを図ることができる人。 ・被服分野の専門家として社会貢献したい人。	

## 家政経済学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学、家政学及びその他関連領域に関する基礎知識を身に付け、経済と生活の互いの関わりを広い視野で理解している。</li> <li>・選択した専門分野の知識を身に付け、経済問題や生活問題の分析に活用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済問題や生活問題に関わる課題について幅広い視野を持って論理的に考察し、その解決の道筋を自らの意見としてまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活問題からグローバルな問題まで、経済と生活の関わりに関心を持って考えることができる。</li> <li>・自分の利益のみでなく社会や自然への影響を考えながら行動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に必要な文献・資料等を多様な手段を組み合わせて収集し、知識を整理することができる。</li> <li>・様々な調査・分析手法を用いて、研究テーマについて分析することができる。</li> <li>・自らの意見を述べ、討論し、仲間との議論の中で自分の考えを深めることができる。</li> <li>・分析した内容を踏まえ、自らの考えを論文・レポートとして表現することができる。</li> </ul>	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学、家政学、関連諸学の基礎的な考え方や分析手法を学ぶ入門コースを置いている。</li> <li>・学生個々の関心に応じて学べる「経済・経営コース」「公共・生活コース」を設置している。</li> <li>・身近な生活問題から国際社会まで社会全体を見渡す力をのばす専門科目群を置いている。</li> <li>・少人数で意見交換をし、物事を体系的に考える訓練ができる2年間の演習を置いている。</li> <li>・4年間の学修の集大成として、最低でも20000字の卒業論文執筆を必修としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク、ワークショップ、プレゼンテーションを行う科目を置き、仲間との意見交換の中で多面的な視野を持って自分の考えを深める機会を大切にしている。</li> <li>・演習・卒業論文執筆を必修とし、経済や生活に関わる課題を設定し解決策について論理的に考えることができるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的に理論を学ぶだけでなく、身近なものからグローバルなものまで具体的な経済問題や生活問題の紹介を講義の中で行い、理論と現実を関係づけながら関心を深めるようにしている。</li> <li>・特定領域の専門知識だけでなく、経済学・家政学・その他関連領域について幅広く選択して学べるカリキュラムを準備し、生活そのものが持つ総合性を理解して公益について考えられるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下記について修得するための科目を置いている。</li> <li>・統計に関する基礎知識を得る。</li> <li>・アンケート調査やヒアリング調査に関する基礎知識を得る。</li> <li>・コンピュータ等を用いて、数量的な処理をする。</li> <li>・日本以外の国の専門関連情報を収集する基礎として外国書講読のクラスを設けている。</li> <li>・グループワークやワークショップを体験する。</li> <li>・テキストや収集したデータをもとにしてわかりやすいレジュメを作成する。</li> <li>・専門用語を用いて意見交換をする。</li> <li>・長文の論文を、構成、検証、資料の扱い等を考慮して執筆する。</li> <li>・作成したレジュメや論文のポイントをおさえてわかりやすく発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミにより、合宿を通じて学内ではできない経験にトライしている。</li> <li>・日頃の成果を発表しあい、交流を図るために他大学交流を行っているゼミもある。</li> </ul>
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の様々な現状を、家政学、経済学・経営学を中心とする社会科学の方法で、広く学ぼうとする積極的な意思を有する人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ますます複雑化する生活問題から最も重要だと思うテーマを自分で見つけ、問題の解決方法を探り、分析する力を身に付けたい人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い視野を持ち、自主的に学ぶ姿勢を持つ人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を適切な表現や客観的なデータを持って伝えたり、他者の意見を聴くスキルを磨きたい人。</li> </ul>	